



新年のご挨拶

病院長 篠原 信雄
しのはら のぶお

新年あけましておめでとうございます。皆様には穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。地域の皆様に支えられ、釧路労災病院も今年も無事新年を迎えることができました。

私も2024年4月に当院に赴任して1年8カ月の時が過ぎました。その間、くすぶるコロナ感染対策、医師の働き方改革への対応、看護師不足を含む医療者の確保、医療安全や災害医療対策への取り組み、そして病院経営の問題など、釧路労災病院を取り巻く様々な問題にかかわってきました。その多くは一朝一夕にできるものでなく、時間をかけじっくりやっていく必要があります。ただ、病院経営については、ご存じのように多くの病院が赤字に陥り、非常に大きな社会問題になってきており、待ったなしです。当院は、多くの方の献身的な努力のおかげで、比較的良好な経営を維持していますが、多くの医師、看護師等医療従事者の確保も含め、今後も十分な対応が必要と思っています。

院内も様々な課題がありますが、それ以上に当院を取り巻く釧路・根室3次医療圏にも大きな課題が山積です。その中で、人口減少と高齢化、医療体制の変革が大きな問題です。厚労省の「がん診療提供体制の在り方に関する研究会(令和7年8月1日)」の報告書からもこれらの点を取り上げ報告されています。実際、2025年には団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、医療や介護の需要が増加します。内閣府「令和4年版高齢社会白書」によると、2025年の高齢者人口は、65～74歳の前期高齢者が1,497万人、75歳以上の後期高齢者が2,180万人になるとされています。実に、国民の約3人に1人が65歳以上になると推測されています。そのような高齢者の急激な増加により医療の需要が高まるとされます。

一方、そのような需要の増加に対し、医療の供給サイドの増加は不十分です。特に地域医療においては医師、そしてそれ以上に大きな問題が看護師、薬剤師などコ・メディカルの充実で、医療の供給の問題とともに病院の経営、病院の存続にも大きな問題を突き付けてきています。そのような状況を解除する意味で、医療Dx(デジタルトランスフォーメーション)の充実が叫ばれていますが、そのためには資金が必要で、国、都道府県レベルでそれらの援助がどれだけなされるか注目しています。

様々な問題を抱えつつ、新しい年を迎えました。たった2年ではありますが、釧路の素晴らしさに感動する毎日です。朝起きたとき自室の窓から見る雄阿寒岳、雌阿寒岳の美しさ、細岡展望台から見た釧路湿原の遠望、幣前橋あたりから望む素晴らしい夕日、これらを本当に宝物のように思っています。厚岸のカキ、釧路のサンマ、白糠のラムなどおいしい食べ物にも事欠きません。

これからも、本院そして釧路・根室地域の医療のため私も含め全職員、一丸となって医療を支え続ける所存です。本年もさらなるご支援、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。